

が爆弾証言

論家が

官房機密費マスコミ汚染問題で
情報提供者・新証言が続々殺到中!

書

他人への責任追及にはひととき熱心な新聞・テレビ。自らの機密費汚染についてはこのまま逃げ切りを図るつもりだろうが、そうはさせない。さらなる爆弾証言で迫る!

大相撲の野球賭博疑惑が、連日、メディアをにぎわしている。だが、そもそも新聞・テレビにこの問題を追及する資格があるのか。なにしろ彼らは、自分たちに向けられた「疑惑」には、いまだに沈黙を決め込んでいる。

政権側が、自らに都合のよい「報道」をしてもらうために、国民の税金を原資とする機密費をメディア側に渡し、多くの記者や評論家たちがそれを当然のように受け取ってきた。これは、立派な「収賄」である。ことの重大性は野球賭博の比ではない。

ところが、私と取材

班が行なったアンケートに対し、この問題について内部調査を「やる」と回答した記者クラブメディアは皆無だった。これなら、まがりなりにも調査を行なった相撲協会の方がよほどまともではないか。

そして、機密費を受け取っていた疑惑のある政治評論家らは、いまだ素知らぬ

顔で新聞・テレビに出演し、政治の不正を糾している。

かつて官房長官の秘書を務めていた人物は、この茶番を「ちゃんちゃらおかしい」と嗤った。機密費の配布先リストに沿って、政治評論家たちに機密費を配っていた当事者であるこの人物が、初めて取材に応じた。以下がその証言だ。

「ご苦労さん」と受け取る

機密費には、ご存じのようによりの時の政権が代々引き継ぐ名簿があって、(上写真はその一部)金額のランクは決まっているが、そのときの総理や官房長官との関係で多少、名簿や金額は変えていた。当時、最高のAクラスは藤原弘達氏と細川隆一郎氏で(ともに故人)、300万円だったね。カネは年に2回、私ともう一人の秘書で手分けして配っていた。

細川さんのところに届けるときは、必ずアポを取ってから彼が事務所に使っていた立派なマンションに行っていた。すると彼は必ず「今日は何かね」というんだよ、知ってるくせに(笑)。それで、「官房長官の使いで参りました」というと、「ご苦労さん」といって受け取る。

あるとき細川さんが電話で、「大事な話があるから、官房長官と会う日程を至急作ってくれんかな」といつてきた。「会わせたい人間